授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の国語の未来へバトンをつなぐ

令和元年６月発行
西部教育事務所

今年度より新しく始まった「国語科授業づくり講座」が５月１６日（木）大方中学校で開催されました。次回の６月２０日（木）の授業研究会に向けて行われた第１回教材研究会の様子を紹介します。

西部管内の講座関係のＨＰ

【提案内容】中学校２年「お気に入りの短歌について鑑賞し、考えを伝え合おう　～言葉の使い方や表現の工夫、その効果について考える～」
（教材名：「新しい短歌のために・短歌を味わう」2 年光村図書）

【授業者】　澤近　史拓 教諭　（黒潮町立大方中学校）

課題の所在

平成３１年度全国学力・学習状況調査の結果や日々の授業等からの国語科の課題として
- 「目的に応じて内容を正確に読み取ること」
- 「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持ち、表現すること」の二点について示された。

【目指す状態】
- ○ 一つ一つの言葉に着目させ語感を磨き、語彙を豊かにする。
- ○ 深めた考えを表現する力をつける。

提案趣旨説明

【本単元で付けたい力】
- ○「短歌やその鑑賞文を通して、作品中に表現されてる言葉の使い方や表現の工夫に着目し、情景や作者の心情について想像して読む力」
- ○「自分が考えた作品の情景や魅力について根拠を示して、明確に伝える力」

【本時の視点】
- ①主体的な学びにつながる課題設定の在り方
- ②付けたい力につながる単元構想（本時）になっているか

【働かせたい見方・考え方】
短歌や鑑賞文から、言葉の使い方や表現の工夫に着目し、自分の言葉の捉え方について考える。

模擬授業

まず視点①「主体的な学びにつながる課題設定」として本時の課題を「自身が選んだ短歌の良さを情景や心情を表す言葉に着目して友達に鑑賞文で伝える」と設定。本時ではその課題解決のために「筆者の鑑賞文と自己の鑑賞文を比較して自分の表現の仕方について考える」ことをめあてとした。

次に視点②につながる学習展開として、筆者の鑑賞文を例として示し、筆者が「どの言葉にどのように着目して鑑賞文を書いているのか」等について、自分が書いている鑑賞文との違いを考え、よりよい鑑賞文にするために必要なことは何かを捉えさせた。

協議・共有

管内外から15名の方々に参加いただき、3グループに分かれ、協議を行いました。大方中学校にとって大変参考になるご意見をたくさんいただき、有意義な協議になりました。

【課題】
- ●鑑賞文を比較させる際に短歌が違うと、生徒が何に（どこに）着目して比較すればよいのかという点で視点がずれることが考えられる。
- ●教科書の鑑賞文をいきなり提示すると、生徒はそれが正しい解釈であると考えがちである。そのため短歌の読み取り（表現への着目）が弱くなるのではないか。
- ●１つの短歌でもいろいろな見方（解釈）ができることを実感させるための工夫が必要ではないか。

【改善策】
- ◇最初は、例で示した短歌と同じ短歌で鑑賞文を書かせ、例の鑑賞文と自身が書いた鑑賞文とを比較させる方が、着眼点の違いを捉えさせたり、表現の仕方を吟味させたりするうえでは効果的ではないか。そのうえで、最後に生徒自身が選んだ短歌の鑑賞文を書くことにつなげるとよいのではないか。
- ◇１つの短歌について鑑賞文を複数示し、比較する方法も表現に着目させたうえで、いろいろな見方や解釈ができることを学べるのではないか。

講師による指導

―講師―
前鎌倉女子大学准教授
松永　立志　先生

～私たち国語科教師が、これから授業や学習指導を行う際の「大前提」について～

【国語科のもつ特性】

◆国語（言語）は、全ての学力の基盤である。　（人間として生きる基盤）
◆指導事項の抽象性が高い。　⇒　指導内容が不明確　⇒　評価が曖昧
（学力のとらえが曖昧。授業観が曖昧。言葉のメタ認知が曖昧。）
◆言葉による見方・考え方を働かせて、資質・能力を育成する。
（対象と言葉、言葉と言葉の関係性を問い直して意味付ける。）
◆言語活動（相手・目的）の充実
（「言語活動」を通して「指導事項」を指導する。）

【鑑賞文の指導を通して語感を磨き、言語感覚を豊かにする】

①日常の中で表現の仕方を広げ、言語感覚や語彙力を豊かにする！

例えば短歌に出てくる「やわらか」という言葉は、生活語彙として使われているので意味は分かる。しかし、「やわらか」は物理的な「やわらか」なのか優しさ等の感覚的「やわらか」なのかを考える際、どういう場面なのかや、使った人（作者）の心情に思いを馳せることで単なる辞書的な意味から様々な意味に広がっていく。それが、言語感覚や語感につながっていく。教師はそれを日常的に意識し豊かにしていくことが大事である。1つの言い方や使い方で満足せず、いろいろな表現の仕方をさせるかどうかで語彙の豊かさは変わっていく。

②語彙を増やし、豊かにすることを目的とした語彙表の活用！

生徒に語彙表を持たせ、理解語彙を増やすことから使用語彙を増やすことへレベルを上げていく。使用した語彙をチェックすることで自分自身の使用傾向が見え、使用頻度の少ないものを使用させる手立てなどを取ることができる。また、新しい言葉を書き込むための空欄を作り、語彙を増やす工夫を行う。

③生徒の実態に応じてスモールステップで鑑賞文指導をする！

鑑賞文を書くなどの作業をさせたい場合、作業をするためのノートづくりを通してステップアップさせていく。

ステップ1として、鑑賞文の筆者が使っている言葉の広げ方や深め方を使いながら自分の思い等を加えていき、それを使いながらまとめる。

ステップ2、教材と比較しながら自力で鑑賞文を書く。鑑賞文とは「このように書く」ということを体験させ慣れさせる。

ステップ3、鑑賞文なしの短歌で鑑賞文を書く。

最後に鑑賞文を鑑賞し合う交流を通して、語彙や表現の豊かさにつなげていく。

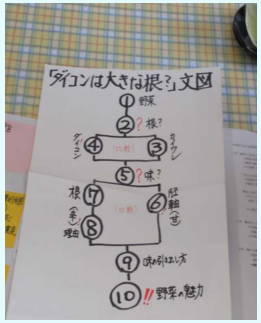
というステップを、生徒の実態を踏まえたうえで検討する必要がある。

～通覧の授業より～

「ダイコンは大きな根？」（説明文）の『段落の役割』を捉えさせる授業について

◇段落の要点を意識しながらサイドラインを引かすことは大事である。
しかし、それは既習事項であるため、本来は要約や要旨をまとめることをやっていくことになる。
★なぜ、そこに線を引いたのか、なぜ段落の役割をそう捉えたのかを説明できることが大事である。
↓
内容に裏打ちされる国語の授業では説明の仕方を身に付け、その身に付けた技術（説明の仕方）を使って読み取っていく必要がある。段落構成図を作成させることは有効な手段の1つである。

【助言より抜粋】



参加者の声

- 国語科教員が、抽象性の高い指導事項を、どれだけ具体的にして授業に臨むかが大事であるということを改めて考えた。付けたい力を明確にすることに力を注ぎたい。
- 教師が生徒の思考を遮らないような手立てがあり、自身の授業に取り入れ、主体的な学びができるような授業づくりをしたい。
- 1つのことを表現する言葉はたくさんあるが、自分たち教師が生徒から引き出せていないということに気付かされた。

今後の予定

6月20日（木）　黒潮町立大方中学校　【授業研究会】
2年「お気に入りの短歌について鑑賞し、考えを伝え合おう」
◇13:10～16:20　公開授業・研究協議・松永先生による指導・助言